



学校だより

平成31年 3月11日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.494

「人を敬うひびきのあることば」

校長 谷田 弘子

卒業式まで10日を切りました。各学年では、学年のまとめと次の学年への準備で忙しい毎日を送っています。春の日差しの下、休み時間には、今の学年の友達との時間を惜しむように、みんな元気いっぱい遊んでいます。春はもうそこまで来ています。

さて、最近の児童の話方を聞いていると、使い方がおかしかったり、文になっていなかったりなどで、これからの日本語は大丈夫かな？と思うことが多くなりました。

私が教員になって間もない頃ですが、ある新聞で、いろいろな言葉について話し合っている対談の記事を読んだことを思い出しました。その中で、ドイツの音楽家の方のお話が面白くてとても心に残りましたので、紹介します。この音楽家はエリカ・ケートさんというソプラノ歌手です。エリカ・ケートさんは、言葉の響きや匂いに敏感な方であったようです。そのため、いろいろな国の言語について、調べたり語ったり歌ったりしていらっしゃいました。もちろん、音楽家ですから、「歌のことば」についてさまざまな研究もされてきました。

対談の中で、「どこの言葉が一番、歌に適していると思いますか？」と質問されました。すると、エリカ・ケートさんは凜とした口調で「それはイタリアです」と答えました。次に、「では、ドイツ語の響きはどうですか？」との質問に、「ドイツ語は、詩をつくるのに適しています」とおっしゃいました。

「では、フランス語はいかがですか？」この問いには、「フランス語は『愛』（愛情を表現する）を語るのに最もふさわしい言語です」と答えられたのです。その見事な比較の後で、「では、日本語についてはどう感じら

れますか」との質問がありました。すると、しばらく考えられて、やがて、穏やかなしつかりした口調で「日本語は、人を敬うひびきのあることばです」とお答えになったのです。”日本語は、人を敬うひびきのあることば”

この記事を読んで、日本人として私は、すごく嬉しく幸せな気持ちになりました。日本のことばが人を敬うひびきがあると、外国の人から感じられていたのかと思うと、まるで、自分が褒められたようにありがたく明るい気持ちになります。

日本語は、むずかしくて、世界の中でもマスターしにくいことばであると言われています。私も、「ひらがな」「カタカナ」「漢字」「ローマ字」などと、外国の人にとっては、覚えるのに大変な努力が必要で、気の毒だなと日頃から思っていました。また、最近はこのことばが乱れて、“美しい日本語”を話したり書いたりする人が少なくなったとの調査結果もあり、悲しい気持ちになっていたのです。でも、エリカ・ケートさんの「日本語は、人を敬うひびきのあることば」という希望あふれるお話を聞いて、なんとすばらしいことだろうと思います。とても素敵な評価をいただいたということです。

私たちは、祖先が長い年月をかけて大事にしていねいに育んできた日本語を大切に、より美しくより正しく、心をこめて遣っていききたいものです。”ことばの乱れは、心の乱れ”とも言われています。人を敬うひびきのある「かけがえのない私たちの日本語」を、これからも誇りをもってきちんと使っていきたいと思います。来年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。美しい日本語を海外の方々に伝えていきたいものです。